

	1 保育園の運営基準について 児童数が減少している地域で子どもの教育・発達等を考慮した保育環境を確保するためには、利用人数などの目安を定めることが望ましいと思いますか。その理由、また、その他の考え方など。	2 集団保育について 児童数減少により集団保育（おおむね 20 人以上の保育）が困難となる保育園等において、特に3歳以上児は、子どもの教育や発育を考えるうえで、可能な範囲で集団保育が可能な園への転園を図ることが望ましいと思いますか。その理由、また、その他の考え方など。	3 通園環境について 児童数が著しく減少しても、特に3歳未満児の通園や保護者支援を考慮し、保育園等までの通園距離を考慮した保育園運営が望ましいと思いますか。その理由、また、その他の考え方など。	4 小学校等との連携について 現在、各保育園等と小学校等との交流を図っていますが、児童数減少に伴う課題や解決策等、また、新たな施策として考えられること。
委員 A	<p>集団保育について、適正な人数があると思います。以前、少人数園の縦割り保育を見たことがあります。年少、年中、年長児を2つのグループに分け（そうすることで、年齢別であれば3名必要な保育士が2名になります。）大きい子が小さい子をみながら過ごすというやり方でしたが、それぞれの年齢にあった保育がじゅうぶんできたかという疑問がありました。もちろん、思いやりや異年齢集団での経験などプラス面もありましたが、それ以上に年齢に沿った発育の保障という点が難しいのではないかと感じました。</p> <p>きちんと年齢にあった保育をしてほしい、と思うので、保育士が十分配置できないのであれば、人数の目安を定めることは望ましいと思います。</p>	<p>転園もやむなしと思います。園児が自分で歩いて通っていた時代とは違うので、自家用車での通園であれば、望む地域から少しはずれてしまっても仕方ないと思います。</p>	<p>3歳以上児がいない園に、未満児が通うというイメージでいいのでしょうか？それはあってもいいと思います。</p> <p>園児が減っていく中で、もし空いてしまう園があるのなら、そういった保育園の存在も園のバリエーションが増えるという点でよいと思います。</p>	<p>「同じ園の園児」が「同じ小学校」へ入学、というわけにはいかないと思いますが、保育園の子が小学校の様子を知ること、小学生が園児と触れることはとてもよいと思います。それぞれの地域にあった活動ができればいいのではないのでしょうか？</p> <p>今は中学進学を考えても、受験して進学する児童もいるように、同じ小学校の児童が全員同じ中学校へ進学するわけでもないですし、保育園の集団がそのまま小学校へ行くのではない、ということにそれほどこだわらなくていいと思うので、その学校、園でできることをするのがいいと考えます。</p>
	<p>5 その他</p> <p>伊那市には幼稚園も少なく（長野県が他県に比べてびっくりするほど幼稚園率が低いので仕方ないですね）私立の園もあまりないので、保護者の中には公立を選ばざるを得ないというような人もいるかもしれません。いつかそのうちに特徴のある私立の幼稚園、保育園ができるといいなと思っていましたが、児童数が減少している現況では難しいかもしれません。</p> <p>なので、公立でもできる範囲で特徴のある園ができていいのではないかと思います。少人数園は難しいだろうと前述しましたが、閉園前の伊那西部のように、障害のある子どもが多く通う小さな園があってもいいかもしれません。伊那西部はのんびりしていて、環境もよく、障害のある子どももいない子どもも過ごしやすいな、と感じたことがあったのです。もし、3歳未満児の保育園ができるのであれば、それはそれで親の選択肢がひろがりますよね。</p> <p>考えの違う保護者の意見をあまねく聞き、それに沿うような保育をするのは、行政や保育現場でも大変なことだと思います。いろいろな園を見たり、聞いたりすると「勉強もさせてほしい」とか「体育に力を入れてほしい」または「一本通った理念のもとで育ててほしい」というような要求は保護者にはあると思うのです。つくしんぼ保育園は、今はわかりませんが私が知っている頃は全員布オムツでした。「まさか！公立ではあり得ない！」と驚いたことを思い出します。でも、園で「これが方針」と打ち出せば、親もそれに従うんだなと感じました。</p> <p>理念に賛同し、同じような目標、考えを持った保護者や子どもが集まるようなことも、これからの伊那市にとっては良いことなのではないかと思います。</p>			
委員 B	<p>現在、休園・廃園の基準がありますが、休園・廃園でなく、〇〇保育園の分園などにできないでしょうか。確かに、施設の維持管理など大変な問題もあると思います。</p>			
	<p>5 その他</p> <p>各保育園の男性保育士勤務の現状を教えてください。（西箕輪の園には男性保育士が勤務し活躍）</p> <p>西箕輪南部保育園の、園庭上に電線が横切っていますが、移動できないでしょうか。</p> <p>地域社協脳いきいきで園児との交流を行っていますが、大変好評です。</p>			

	1 保育運営の基準について	2 集団保育について	3 通園環境について	4 小学校等との連携について
委員 C	<p>定めるべきではないと考えます。</p> <p>保育施設や職員といった問題はあるかもしれませんが、山間部の過疎化を深刻化させ、地域ならではの伝統等が廃れてしまうのではないかと考えます。</p>	<p>定数を設けるべきではないと考えます。</p> <p>特に3年間の保育機関の期間中で転園となります。場合、児童や家庭にかかる負担は大きいと考えます。</p>	<p>児童、保護者の観点からすれば近隣での保育運営が望ましいと考えます。但し、1名などの場合は集団生活経験などができないため一概ではない。</p> <p>コスト、人材面での調整が必要だと考えます。</p>	<p>各行事は合同でできたらと思いますが、能力の差などもあるため難しい。</p>
	5 その他			
委員 D	<p>望ましい。</p> <p>保育環境の整備等の観点からも基準は必要だと考えます。</p> <p>前回の審議会が出た『施設整備基準』もそうですが要望や案件、全てを実現できるわけではなく限られた予算内でやらなければいけないのであるならば、ある程度の線引きは必要と考えます。これについては具体的な数字や市の意見、基準の必要性の根拠等を示した方が皆さんの理解が深まるのではないかと考えます。(現状の施設整備基準を設けた時の理由や根拠など)</p> <p>以前の審議会でも保育士不足等による運営自体が危機的状況という議題が上がり、私立化(業務委託なども含む)などの話も上がっていたと思いますがそういった経緯も含め、基準を設けた上で必要があるならば、個別に対応すれば良いと考えます。</p> <p>個人的な意見として、もし休園や廃園となった場合の対策を考えるのであれば、子育て世代で転園が必要な地区の方には一定割合の保育料の減額等に対応する方が保育園を無理に運営するよりも両方にメリットがあると考えます。</p>	<p>子どもに問題がなく希望するなら望ましい。</p> <p>今後、小学校以上(社会人に至るまで)に上がれば集団生活が基本となる中で早くにその体験、経験させることは望ましいと考えるが、あくまで子ども目線で考える事に重点を置く。何かの理由により拒否や問題等が発生した場合は強制する事はなく臨機応変に対応していく事が望ましいと考えます。</p>	<p>一概に望ましいとは言えない。</p> <p>児童数が著しく減少し運営自体が困難で運営費を賄わなければいけないような状態であるならば状況によっては運営自体を見直す事も必要と考えます。</p> <p>通園距離の優先順位は低いと考えます。(車での送迎が多い為)</p>	<p>子どもたちにとって良い方向に働いているのであれば交流を継続していく事が望ましい。</p> <p>また社会の環境変化(共働き家庭の増加・保護者の考え方の変化)、児童数の減少等を考慮して、行事等(運動会など)を小学校と保育園合同で行う事や小さな保護者の参加が必要な行事の削減を行い、保護者の負担を減らす事も良いのではないかと考えます。</p>
	<p>5 その他</p> <p>A.前回.前回の審議会に配布された『事業点検評価特別委員会 調査・研究に係る提言』について疑問に思った所を意見として出させていただきます。</p> <p>①『施策評価シート』の【理由1】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準の根拠となる法令等の定めがない。また県内19市のうち同様の基準を設けている所はない。 <p>A.各市町村全ての環境が一緒ではないので一概に比較するには無理がある。法令的に定めがなく違法でないなら定めがあっても問題はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那市は歴史的に見て～小学校区に公設公営の保育園を最低でも1校1園体制で設置してきた。 <p>A.昔と今では児童数の件でもそうだが、環境も違えば親(保護者)の考え方にも変化があり一概に比較するには無理がある。過去に捉われず今に適した内容を柔軟にその時に考えるのが良いと考えます。</p> <p>②『施策評価シート』の【理由2】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代で移住・定住を考えている人の多くは中山間地の生活を求めている。 <p>A.『子育て世代で移住・定住を考えている人の多く』とはどのくらいの規模で対象にされた方はどういった環境の人達でしょうか?</p> <p>仕事柄、子育て世代のお母さんの相談をしていますそのような話が出るのはほんのわずかです。(理由は実家の近くにしかたなくなど)中山間地の就職求人を提示する事がありますが地理的にも不便で住むのも働くのも芳しくない、困難という意見がほとんどです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園を休廃園にすれば、移住・定住を考えている子育て世代の方が、伊那市を選択してくれない可能性がある。 <p>A.問題はそこではないと考えます。保育園が有るか無いかを理由に住む所を決めるケースは少ないのではないかと考えます。(小学校の近くは候補に上がるケースがあります)</p> <p>理由として挙げられるのは両親の近くに家を建てる。仕事の都合(会社の寮、会社の賃貸に入るなど)。土地、家屋等の資金の都合などが話を聞く中では多いです。</p> <p>上記を参考に基準の継続、廃止等の整備を検討して下さい。 参考 ※相談対象者185名</p>			

	1 保育運営の基準について	2 集団保育について	3 通園環境について	4 小学校等との連携について
委員 E	<p>利用人数が多いから少ないからという理由で子どもの発達に直接影響があるか正直わからないが、保育士さんの確保が難しい現状で、少ない人数の園に配置するのは困難ではないか。</p> <p>保育環境を確保するのであれば、保育士さんの労働環境を目指す？改善する方が先ではないかと思う。</p> <p>ここが整っていれば、ある程度的人数(少人数でも)希望があれば保育は行ってほしいと思う。</p> <p>(でも、目安は必ずあった方がよい。保育士の人数配分が出てくるから。)</p>	<p>自分の居住エリアがそういう状況だったら・・・と考えられる限り地元で見てもらいたい(移動時間など大人の理由も含めて)と思うが、子ども達が育つ上ではある程度的人数が必要かと思う。(20分以上の移動時間は厳しい。)</p>	<p>送迎時間は親にとっては重要(園まで20分以上かかったら辛い。)</p>	<p>移住希望者を対象に保育園や学校を公開するのは良いと思う。(伊那小、新山小のように特色がはっきり見えるところは公開しやすいかなあ・・・)</p>
	5 その他			
委員 F	<p>現在どこでも園児、児童数が減少していると思います。</p> <p>人数等の目安を定めることが望ましいか、とありますが、みんな保育園で見ていただきたいので希望するわけであるので、保育士の確保を考えていただければありがたいと思います。</p>		<p>特に3歳未満児が一番手がかかる時で、家庭内で介護とか看護しているとかの場合、たとえ短時間でも見ていただければ助かるのではないのでしょうか。</p> <p>保育園での運営が望ましいと思いますが。</p>	<p>私の住んでいる所の保育園は、だんだん減少しつつあります。同じ事で、学校も減少してきております。保育園を卒園した子供たちがそっくり学校へ入学する私のところは、常に保育園と学校が連携を取り合って保育園の先生が学校へ行って報告等をしているようです。大事なことではないでしょうか。</p>
	5 その他			
委員 G	<p>原則として決して行政側の都合だけで進めるべきではないし、一方的な決定はあってはならない。</p> <p>それを踏まえた上で、地域の求める場所や規模全てを充実した園にしていくことは困難であろうし、各行政の考える成長計画に沿って、その計画を地域住民にも理解して頂きながら利用人数の目安は定める必要はあると思う。</p>	<p>転園するかしないかはその園の規模や保育内容を見ながら保護者が決定することだと思う。</p> <p>大規模園での集団生活の魅力、また小規模園での保育内容の魅力はそれぞれあると思うので、そこに対して転園すべきかどうかは判断できない。しかし、極端に少ない園においては小・中・高・・・と続く集団生活に馴染めない弊害が起きてしまうのであれば、そこは1の問いにもあったように一定の人数の目安を設けるなどして行政の計画を住民に理解してもらおうラインは決めるべきだと思う。</p>	<p>保護者の事情は考慮すべきだが、極端な話行政の決める保育園廃園の地域には若い世代の移住者は集まらないだろうし、行政で力を入れる里山保育の園があるとすればそこに住民は集まると思う。</p> <p>結局のところ町を作っていくのは行政の計画方針に沿った内容になっていくと思うので、その計画をしっかりと理解してもらい、また住民の意見に耳を傾けながら必要と判断した地域には例え人口減少している地域でも存続させる必要はあると思う。地方ニーズに園を運営できるのは行政しかできないことだと思っています。</p>	<p>小学校との連携ですが、昔は小学校との連携の活動はありませんでした。しかし小学校に進学して行き詰る子供も少なかったように思います。</p> <p>理想かもしれませんが、大変な事柄に対してそれを知っておくことで乗り切るやり方ではなく、どんな環境であっても子供自身が乗り越える力を身に付ける為の幼少期を過ごすことが出来たら、そんな力を付ける土台作りを幼児期に過ごしてもらいたいと思います。</p>
	5 その他			

	1 保育運営の基準について	2 集団保育について	3 通園環境について	4 小学校等との連携について
委員 H	<p>「3歳児以降は子供の人数の多い集団の中で育つことが発達段階として重要」とのことですが、利用児童数で発達に大きな差異が生じるな、良好な保育閑居を確保するために利用人数の目安を定めることは意味がありと思います。</p> <p>何か研究報告書、データ等で、具体的な利用児童数と子供の発達との相関関係がわかるもの、あるいは子どもの発達に対する具体的なメリット・デメリット等がわかるようでしたら、それらを示していただければ判断しやすくなると思います。</p>	<p>一定の人数以上の集団保育（概ね20人以上）が、子どもの教育・発達等に重要であり、20人以上と20人未満での差異が大きいものであるなら、可能な範囲で転園する意味はあると思います。</p> <p>これも、1、と同様、発達等に対する具体的な研究報告書、データ等があれば判断しやすいと思います。</p> <p>民間の幼稚園では、スクールバスによって遠方から通園しているわけですが、3歳児以降の子供であれば離れた園へのバスによる通園も大きな負担にならないように思います。</p>	<p>保護者、児童（特に未満児）にとっては、保育園等が近くにあれば安心と思いますが、極端な話、児童1名でも保育園等を開園しておくというのは明らかに無理があるので、小規模保育園等の施策を検討してもよいのではないかと思います。</p> <p>また、今はほとんどの場合自家用車での通園になると思いますので、「通園のしやすさ」の方が重要な要素と考えます。具体的には、幹線道路からのアクセスのしやすさ、道路幅員等の道路の整備、近くに保育園があるための駐車スペースを確保するなど、利用のしやすさを向上させる必要があると思います。車での通園なら多少離れていても時間はそんなに変わらないので、単純に通園距離という基準はあまり重要でないと考えます。</p> <p>保護者の勤務先の場所（方向）によっては、距離は遠くても通園しやすいケースもあると思います。</p>	<p>保育園と小学校等との交流を考えれば、両者はできるだけ近くにあることが望ましいと思います。（富県小学校と富県保育園、新山小学校と新山保育園）</p> <p>子供たちが、徒歩で、安全に行き来できれば一番良いと思います。</p> <p>また、保育園等と小学校等が隣接して設置できれば、給食室、運動施設などを共用できる可能性があり、児童数の減少する中、設備投資が抑えられる可能性があると思います</p>
	<p>5 その他</p> <p>児童数の減少は間違いない事実なので、財政上、すべての保育園等を維持していくことが困難になる可能性は多いにあると思います。しかし、保育園等が地域あることは住民（特に子育て世代）にとっては安心感につながるので、時間はかかるとは思いますが丁寧に議論すべきと考えます。</p> <p>今回、このように「児童数」と「子どもの教育・発達等」の関係から保育園等の適正な定員を考察したように、「児童にとってのメリット・デメリット」、「保護者にとってのメリット、デメリット」、「地域の過疎対策から見た場合」「財政の問題としてみた場合」、また、市会議員のいうように「地方自治法との関係」で「市民の公平性（?）」について問題があるのか（?）など、それぞれの切り口を明確にして多方面から考察し、市民に情報提供（研究報告書、データ等も含めて）していくことの必要性を感じます。</p> <p>しっかりとした情報提供と、対応する施策の丁寧な説明があれば、近くに保育園等がなくなって別の保育園に通園することになっても、一定の理解が得られる可能性はあるのではないのでしょうか。</p> <p>現在の市の施設設置基準は、多分「財務上の視点」から決められたものだと思いますので、それはそれとして、「財政上」以外の視点との比較検討をする仕組みを明確にすべきではないのでしょうか。（今もそうなっているとは思いますが、やや弱いような気がします。）</p>			
委員 I	<p>移住・定住等を推進しようとしても、地域に保育園などの子育て支援の施設がなければ、特に子育て世代が生活することは大変厳しい状況になると思われま</p> <p>す。</p> <p>最低でも地域の中（小学校区）に一つの保育園は存続させたい。その場合、地域の実情にはかなりの差があると思われるので、市として一律に休園・廃園の基準を定めることは一考を要するに思います。</p> <p>該当児童1名で保育園存続というような極端なことは考えられないと思うが、ある程度の目安は設けるとしても、休園・廃園等については、地域との連携も密にしながら、ある程度柔軟な対応が必要であると思います。</p>	<p>集団での保育が可能であればそれに越したことはないと思いますが、通園距離や方法、地域への保育園の存続との兼ね合いで考えていく必要があるように思います。</p> <p>最終的に何を優先して考えるのかをしっかりと検討していく必要があるように思います。</p>	<p>保護者の通勤等の状況にもよるとは思われるが、遠距離の通園は保護者にとって大きな負担となる場合が多いように思います。</p>	<p>児童数が減少するからこそ、一層の小中の連携・交流の充実が必要となると思います。その際に、地域によっては移動手段が課題となる場合もあるように思います。移動手段の十分な確保ができると良いと思います。</p> <p>また、将来的には、特に小規模校・園において保小一体となった施設の整備等も考えていってはどうでしょうか。</p>
	<p>5 その他</p> <p>地域に子どもの声が聞こえなくなると、地域のエネルギーは一気にしぼんでしまうように思います。人口減少、子どもの減少等はこれから避けられないことだとは思いますが、少しでも地域の中で子どもたちが元気に生活できる環境を整えられるよう、地域とも連携しながら知恵を絞っていければと思います。</p>			

	1 保育運営の基準について	2 集団保育について	3 通園環境について	4 小学校等との連携について
委員 J	<p>人数の目安を定めることが、その保育園の存続に関わる統合等の方向が導かれるもので、望ましいとは思わない。また、子どもの教育・発達等を考慮した保育環境という視点からは、1クラスあるいは1学年の児童数が多くなりすぎている場合に、過密緩和ができるよう目安を定めることの方が大切だと考える。</p>	<p>望ましいとは思わない。</p> <p>「20人以上の集団保育が困難となる保育園」があったにせよ、その保育園の保育、教育環境を向上、整備させることが第一に考えるべきことだと思う。「転園を図る」という表現が「個々の親への働きかけをする」ととれるので心配である。</p> <p>地域住民、利用者の保育園のあり方についての意見表明、話し合いの場を持てる市政であるべきと思う。</p>	<p>保護者の就労等の保障のためにできる限り配慮することは当然であるとする。「児童数の著しい減少」というのが「2～3人」の場合も「17～18人」の場合もあり、一概に言えないと思う。具体的な事例検討や、地域住民の意向をくむ協議の中で、個々に方向を決めていくべきと考える。市全体の方針を上からつくるべきではない。</p>	<p>交流、連携の必要性は当然あるので、起こっている全体的な困難の解決策はおそらく課で素案を作っているものかと思われる。</p>
	<p>5 その他</p> <p>担当課の方は大変かと思いますが、ぜひ地域の人の声を丁寧に受け止めていただければありがたいです。</p>			
委員 k	<p>対象地域又は通える範囲内に、私立保育園以外の保育園等がない場合には、コミュニティとして存続させるべきであると思うが、管轄する“市は”は組織でなければならぬので、他の私立保育園等がある場合は目安を定めることが望ましいと考える。</p>	<p>思わない。</p>	<p>車社会の伊那地域であるので、通園距離は考慮する必要はないと思います。</p>	
	<p>5 その他</p> <p>1号認定、2号認定について、国の基準に基づいて行う必要がある。「求職中」の理由で2号認定を受ける者について、猶予期間を過ぎた場合は1号認定とすべき、また、定期的に就労証明の提出又は、市において所得を調べるなどして基準を守るべきであるとする。</p> <p>又、2号認定でなくなった者に対して、退園を求めるのが難しい場合は、1号認定と同じ処遇にし、それを超えての利用については実費徴収すべき。その実施も市として困難であるなら、市の幼児全員を2号認定扱いとして、それに対する公定価格を市が上乘せし、私立以外の施設等に給付すべき。</p> <p>私立園は、「いなっせ」の利用料が科せられたり、市のバス使用に制限がかけられる。又、水道料、下水道料、産業廃棄物等の負担も大きい。私立保育園児が受けられるサービスは、公立・私立関係無く享受できるべき。</p>			
委員 L	<p>児童数減少による休園・閉園は即その地域の若世代の流失に繋がります。特に大きな市においては、利用人数の目安を定めることが過疎地域の切り捨て、と捉えられる危惧があります。</p> <p>飯田市にはかなり前にそういった例がありますが、行政に頼らず地域で存続をしています。</p>	<p>集団保育にももちろんマイナス面があります。</p> <p>少人数におけるきめ細やかな保育や教育の利点にも注目すべきであると考えます。</p>	<p>子どもの世界は年齢とともに広がっていきます。</p> <p>理想を言えば</p> <p>保・幼 — 組合・地区</p> <p>小学校 — 地区</p> <p>中学校 — 市町村</p> <p>高校 — 県・郡</p> <p>大学 — 国</p> <p>といった広がりであると思います。子ども達が将来地元に残りたい、帰ってきたい、と考える元となる郷土愛は、育った環境からと考えます。保・幼の時代は特に歩ける範囲がとして望ましい。</p>	<p>この問いについては、幼保小の連絡会・交流会等現状の把握ができてからでないかと答えにくいとあります。</p>
	<p>5 その他</p>			

	1 保育運営の基準について	2 集団保育について	3 通園環境について	4 小学校等との連携について
委員 M	<p>望ましくありません。</p> <p>伊那市議会では今まで多くの議員が一般質問で「伊那市保育園整備計画（後期計画）」の問題を取り上げてきました。</p> <p>伊那市議会はすでにご案内のように、議員全員市議会総意の議決による議長名の提言書をまとめ、昨年12月21日に市長へ提出しています。市民の代表として、また市の議決機関としてまとめた市議会の提言書です。</p> <p>伊那市子ども子育て審議会におかれましても、この提言書を尊重していただきますようお願いいたします。</p> <p>なぜ伊那市議会がこのような提言書を提出することになったかと言えば、この間伊那市議会が市内の保育園関係者と懇談を重ねる中で口々に語られた話として、市内の東部や西部地域、特に人口減少が著しい中山間地域で運営されている小規模保育園で定員が欠けた場合、「休廃園基準」措置への半ば一方的な市の対応でした。また辛うじて「休廃園基準」措置から一時的に脱することができた保育園も、毎年の新年度には常に戦々恐々として入園児数減少に怯えているという実態でした。</p> <p>人口減少、とりわけ子供の人口減少は日本の社会問題であり、市としても過疎化による地域を守る問題であるとの認識を全議員が持ったからでありました。</p> <p>提言書の結論は、「小規模保育園のあり方検討」について、小規模保育園のある市の東部や西部の中山間地に住む市民も安心して子育てできる保育園の運営基準とするために、「小規模保育園のあり方検討(1)施設整備計画 (2)小規模保育園における休廃園基準」を廃止するべきであるとする内容です。理由はこれまで示してきた提案書の2点です。念のために改めて添付いたしますのでよろしく願いいたします。</p> <p>なお昨年1月27日に行われた「小規模保育園のあり方についての懇談会」の会議記録、及び関係地域の区長、総代、公民館長、PTA会長、保育園理事連盟の皆さんから伊那市議会並びに市長に昨年2月3日に提出された「休園中の伊那西部保育園の存続に関する要望書」、さらには平成28年8月に開催した「市民と議会の意見交換会」で市民から出された意見と検討結果を添付します。</p>	<p>望ましくありません。</p> <p>合併後、行財政改革は伊那市の大きなテーマだったが、効率の悪い小規模保育園は合併していこうという動きでした、「集団保育」といながらも、実は行財政の観点から小規模保育園を効率が悪いとして「休廃園基準」であぶり出したといとところに市の本音があるのではないかと勘繰りたくもなります。</p> <p>子育て日本一の伊那市と自慢していても保育園から子どもの声が聞こえない地が域あることは寂しいもので、公立保育園にはお金には代えられないものがたくさんあります。園児が少なくても「山保育」などの特徴ある園はできます。むしろそういう保育を望む保護者もいます。</p> <p>市は法令等について、「平成12年厚生省の通知」の「60人以上とすること」を根拠に「休廃園基準」を作りましたが、現在は「平成26年厚労省通知」で減少の改正がなされており、法令根拠はもはや崩れています。そして市議会はまたこの「休廃園基準」が地方自治法第244条に抵触する恐れがあるとも警告しています。</p> <p>市民との懇談会では、議会に以下のようなご意見が寄せられています。</p> <p>(会議記録参照)</p> <p>「定員を減らしても存続してほしい。」</p> <p>「子どもを集めることに必死にならないかなんて、常に怯えて暮らさないといけない。定員は内規と聞いている。他の地区も併せて定員数の見直しが必要な地域は見直してほしい。」</p> <p>「保育園に適正規模というのがあることもわかるし、半分以下なら保育園を運営するのに採算が合わないというのわかる。しかし定員が欠けたら『ハイ廃園』というのも、そういうものではないと思う。」</p> <p>「一人でも二人でも保育士を置いて安全を確保できれば保育すべきではないか？建物があるのに定員の内規があるゆえにその定員半分以下だったら休園・廃園なんておかしいと思う。子育てNo1というけれども、蓋を開けてみれば子ども集めに戦々恐々しているなんておかしいと思う。」</p>	<p>小学校区が望ましいと思います。</p> <p>保育園のような公共施設は「休廃園基準」をあらかじめ定め、利用者が減るから施設数を減らすというのは誤りだと思います。保育園のように子どもが日常的に使う施設は、原則として徒歩で通えるよう、通園距離を決めなければなりません。それがいわゆる学校区と言われているものです。子どもが半分になったから学校区を2倍にするというのが統廃合の考えです。しかし、子どもが半分になっても、子どもの行動範囲が2倍になるわけではありません。公共施設の場合、使いやすさを最優先しなければならず徒歩でアクセスできる範囲を基本に考えるべきです。</p> <p>市民との懇談会では、議会に以下のようなご意見は寄せられています。</p> <p>(会議記録参照)</p> <p>「伊那西部が休園になったことで竜西・竜南に移ってしまっただけで、平澤、横山には通園に距離があるから実際には不便」</p> <p>「休園になってしまった当時、新山と伊那西部だけが未満児保育と延長保育をやっていなかった。伊那西部はそれができないからみんな移って行ってしまった。」</p>	<p>伊那市には15校の小学校があり、そのうち小学校区に公立保育園がある14校ではすべて「一校一園体制」により「保・小連携」の保育運営がなされています。ところが伊那西小学校についてだけは伊那西部保育園を「休廃園基準」で休園としているために、市内で唯一校区内で公立保育園の運営がされておらず「一校一園体制」による「保・小連携」がなされていません。</p> <p>こう言えば、「私立の保育園もある」と市はいうかもしれませんが、私立はあくまで企業経営の施設であり公立保育園のように同じ市民として公平性が保てる市の公共施設ではありません。</p> <p>また伊那西部保育園については、市の条例に基づく公立保育園として存在しているにも関わらず、「休廃園基準」を盾に運営していないのは地方自治法が禁じる公共施設の市民の差別的な取扱いとなる恐れもあります。</p> <p>市民との懇談会では、議会に以下のようなご意見が寄せられています。</p> <p>(会議記録参照)</p> <p>「伊那地域活性化のためにも保育園は絶対必要。なくしちゃいけない。伊那西小学校の近くに保育園が欲しい。」</p> <p>「保・小連携というが、伊那西小の子たちは保育園がバラバラで入学してくる。つながりをもって成長していくことは大事なことで地域の保・小として残してほしい。」</p> <p>「西小の運動会の来年度入学時の種目は前は8種目あったが今は1種目だけ。入学予定者の保育園がバラバラでつながりが希薄だと感じた。伊那市の根本理念に立ち返る時、地域が小さい子どもたちを皆で見えていくというものが大切で、子育ては保育園からスタートするので大切に考えてほしい。」</p> <p>「西小の近くに保育園があれば、いつまでも存続していたと思う。廃園ではなく、西小のあたりは地域の中心でもあるので、あそこに保育園を作してほしい。」</p> <p>「西地区は竜南、竜西に行っているが、小学校になると伊那小に行く子どもたちと別れてしまいます。小学校区の見直しができるといいと思う。」</p>

	<p>また、私が言うまでもないことでしょうか、平成 28 年 12 月の伊那市子ども子育て審議会における同会長宛の保育運営体制部会報告には「2 保育園は保護者や地域住民にとってなくてはならない存在であるため、閉園は避けたいという思いは尊重されるべきである。」との記述があることを念のために申し添えます。</p>			
	<p>5 その他 市民との懇談会では、以下のようなご意見が寄せられています。(会議記録参照) 「いま竜西に通わせている。伊那西小の近くに魅力ある保育園ができれば皆行くと思う。自分の子供も行かせたい。」「子どもがここにいなくなると地域の関係が希薄になるし、世代間のつながりがなくなることがようやくわかった。」「住んでみたい地区でないと人口は増えないと思う。スマートインターができる、工業団地ができたということで車が増えたが、でもそれは西地区の人たちではないのが現状。」「ますみヶ丘はスマートインターができるし工業団地もできる。地区の発展を長い目で見てほしい。移住者が来た時にここには保育園がありませんなんて言えない。移住者もそんなことを聞いたら移住を躊躇すると思う。」</p>			
	1 保育運営の基準について	2 集団保育について	3 通園環境について	4 小学校等との連携について
委員 N	<p>①1 小学校区に 1 以上の保育園設置 ②利用人数の目安は一応決めて上記の条件は守れるようにする。</p>	<p>1-①の条件に合うことが望ましい。 少人数保育園も地域性を考慮し考える。</p>	<p>3 歳未満児は通園距離（通園時間）を考慮し、保護者及び園児に負担がないように考えていく。 少人数での保育環境を整える公的支援が必要である。</p>	<p>保小交流で実績を上げてきているので、今後も連携を密にしていってほしい。</p>
	<p>5 その他 児童数が増加できるような施策、移住人口の増加（特に子育て世代及び子育て予備世代） 保護者の安定生活の確保 子育てしやすい環境づくり</p>			